

御嶽山の噴火にかかる現地調査結果について

調査日時：平成26年9月28日 15:20～16:50

調査者：国総研土砂災害研究部 國友土砂災害研究室長
土木研究所土砂管理研究グループ 石塚上席研究員
藤村主任研究員
中部地方整備局河川部 阿部建設専門官

【所見】

- ・中部地方整備局と国総研、土研は、降灰の主軸方向に位置する御嶽ロープウェイの鹿ノ瀬駅付近を始めとする、計6カ所で降灰状況確認のための現地調査を実施した（別添調査位置図参照）。
- ・鹿ノ瀬駅付近の降灰の厚さは1mm程度で、粒径は細かいもので構成されている状況を確認した。
- ・また、鹿ノ瀬駅よりさらにその上流に位置する火口から4km地点付近においても鹿ノ瀬駅周辺とほぼ同様の状況であった。
- ・降灰の主軸以外の地点の調査内容の報告を確認した結果、以下のとおりであった。
- ・開田口登山道付近から火口4kmについての降灰は1mmには満たない状況であった。
- ・八海山（村道41号線付近）から火口4kmの間の路面上については、うっすらと降灰が確認できる状況であった。
- ・岐阜県側の胡桃島登山道付近から火口4kmの間については、うっすらと降灰が確認できる状況であった。
- ・これまでのヘリ及び地上からの調査結果を総括すると、山頂付近では、50cm程度の降灰があったと見られ、また、現地での調査結果は1mm程度あるいはそれ未満であった。
- ・また、火砕流は南西方向に3km以上流下したと認められる。

- ・火山灰の堆積状況は、山頂付近を除くといずれも火山灰が薄く堆積している状況にある。
- ・一般的に降灰があった流域では、通常より少ない降雨で土石流が発生する可能性があるが、これまでの調査結果からは土石流が発生しても、現段階で直ちに人家に影響する恐れは小さいと考えられる。
- ・今後は、これまでに得られたデータや情報を基に調査を進め、土石流による二次災害の危険性の詳細について明らかにしていくことが必要。
- ・また、今後の火山活動により降灰状況が変化した場合には、適宜実態を把握し、土石流による二次災害の防止に必要な対策をとることが重要。

地上調査現地状況写真



写真位置①: 鹿ノ瀬駅周辺 降灰の様子1



写真位置①: 鹿ノ瀬駅周辺 降灰の状況2



写真位置①: 鹿ノ瀬駅周辺 降灰状況調査



写真位置②: 入山規制線付近の写真

UAV (Unmanned Aerial Vehicle: 無人飛行機) による調査

9月29日(月) 9:00~

UAVを4機体制で4箇所、1箇所の既設砂防えん堤の堆砂状況について確認
GPSを搭載し、ルートを入力により自動航行



UAVは

人間が近づきにくい場所、危険な場所の調査が可能。

ヘリコプターよりも低高度なため、精度の高いデータが取得可

※近傍で自衛隊機等が活動している場合は、その運行に支障をきたすことがあるため、
UAVの調査にあたっては、予め関係機関との調整が必要となります。

UAV(無人飛行機)による現地調査状況写真(9月29日 午前9時～午後5時)

調査地区 ①



調査地区 ②



調査地区 ③



調査地区 ④



王滝川の濁水の発生源調査について

1. 調査者

- ・ 国総研土砂災害研究室：國友室長
- ・ 中部地方整備局河川部：小野建設専門官、河川工事課：松村課長補佐

2. 調査日時

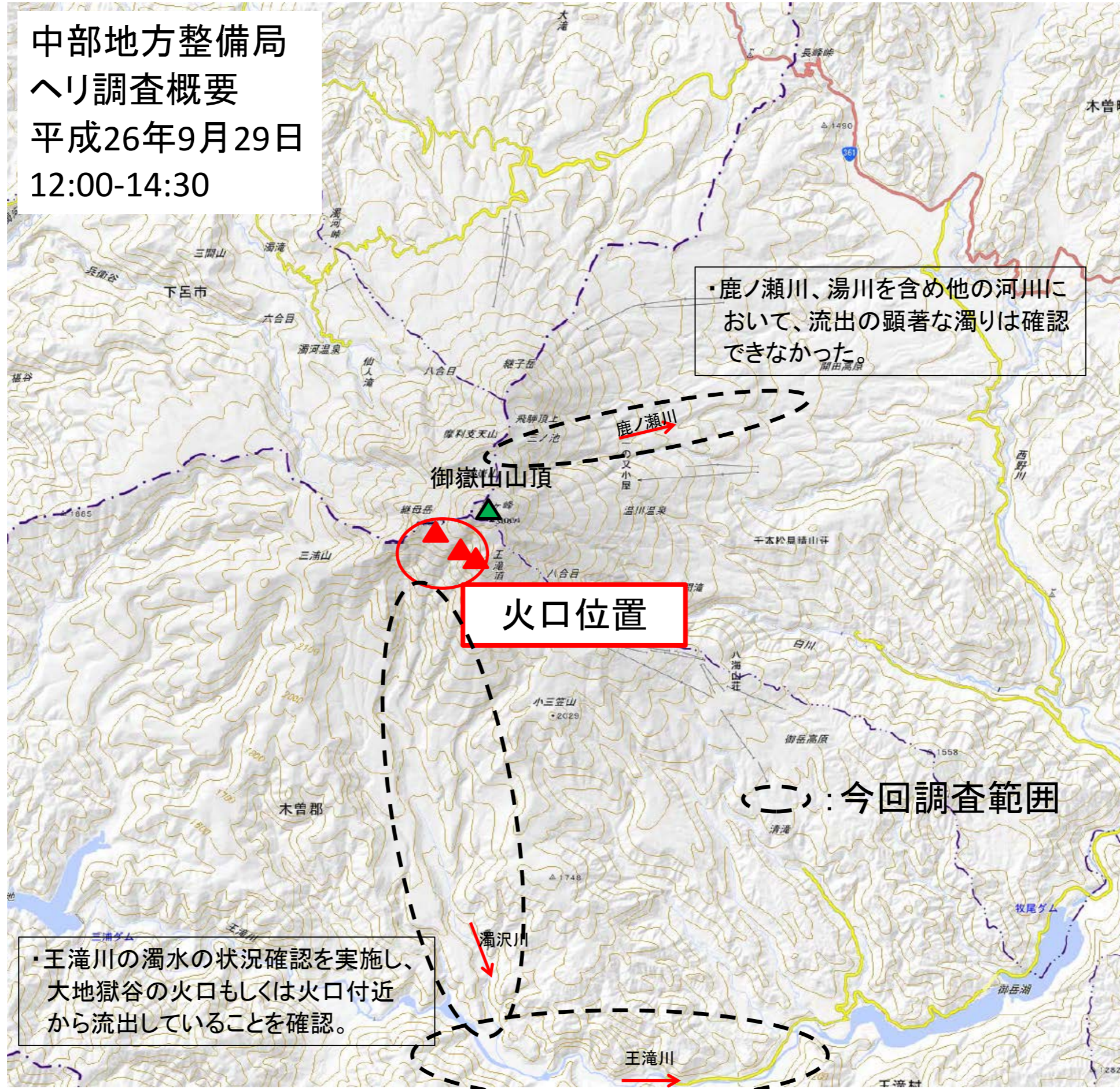
- ・ 平成 26 年 9 月 29 日 12 時～14 時 30 分

3. 調査結果

- ・ 王滝川の濁水の発生源を調査するため、ヘリコプターにより調査を実施した。
- ・ 王滝川沿いに上流に向けて調査を行ったところ、濁水の発生源は大地獄谷の火口もしくは火口近辺であることを確認。
- ・ 現在も濁水は継続的に火口もしくは火口近辺から流出していることを確認。
- ・ 濁水の痕跡より、流量はピーク時から低減している模様。
- ・ ただし、濁水の流量の増減は、火山活動の状況に依存すると考えられ、今後の火山活動状況を注視するとともに、監視体制を強化することが必要。
- ・ また、大地獄谷及びその下流に位置する赤川流域には、火山灰が堆積していること、また火口から流出した濁水により、下流域の一部緩勾配区間に泥質上の土砂が堆積していることから、これらが降雨により二次移動する恐れはある。
- ・ 今回の降灰の主軸方面に位置する、鹿ノ瀬川、湯川を含め、他の河川において流出の顕著な濁りは確認出来なかった。

以上

中部地方整備局
へり調査概要
平成26年9月29日
12:00-14:30



・鹿ノ瀬川、湯川を含め他の河川において、流出の顕著な濁りは確認できなかった。

火口位置

○: 今回調査範囲

・王滝川の濁水の状況確認を実施し、大地獄谷の火口もしくは火口付近から流出していることを確認。

現地調査状況 (王滝川～濁沢川 、鹿ノ瀬川)

平成26年9月29日撮影

1. 濁沢川の王滝川への合流点(濁沢川のみ濁っている)



2. 濁沢川と伝上川の合流点(濁沢川のみ濁っている)



3. 濁水発生源と見られる大地獄谷火口



4. 濁沢川の濁水流下状況



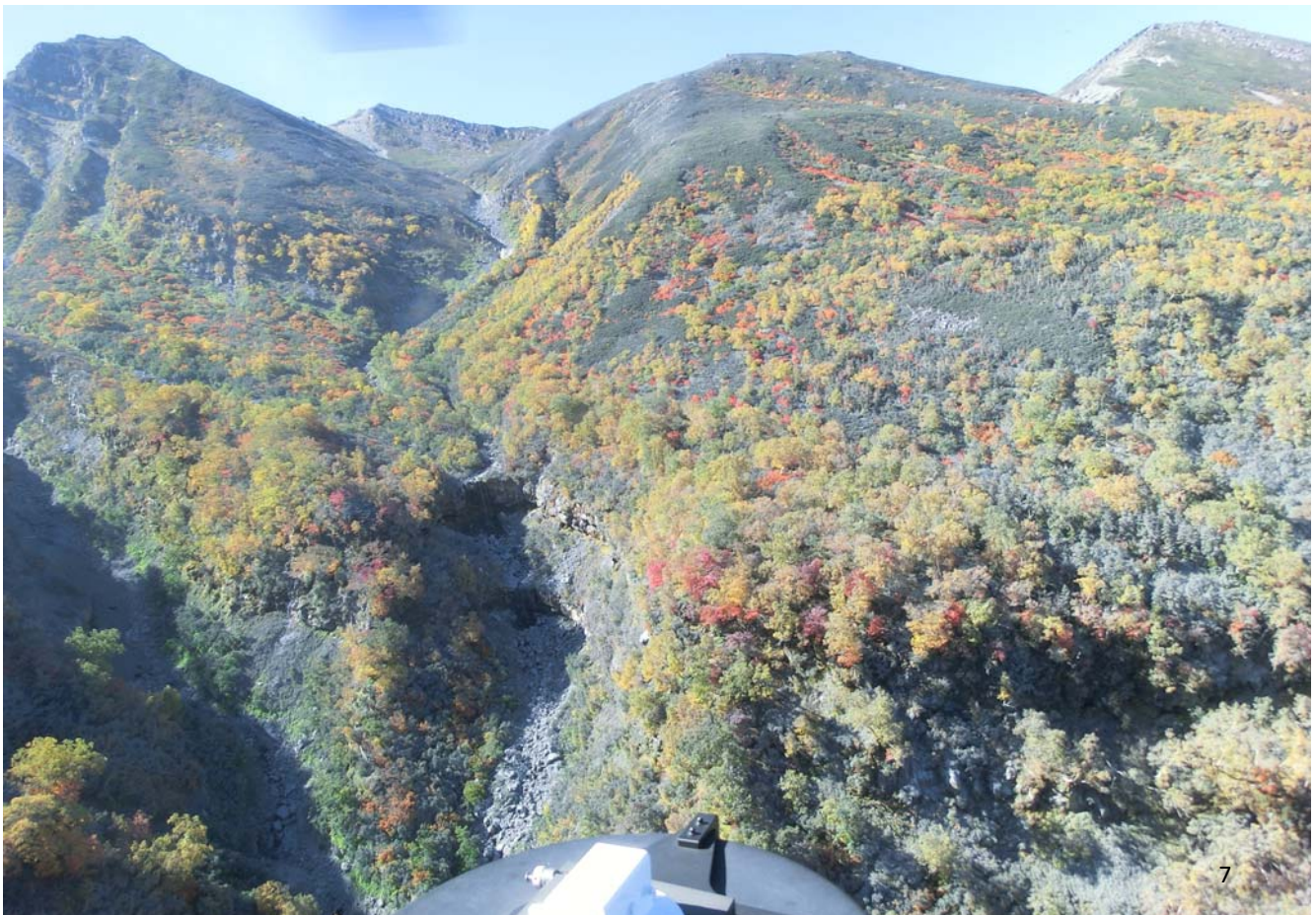
5. 濁水は最大流量でも堰堤を乗り越えてはいない状況を確認



6. 大地獄谷の火山灰堆積状況



1. 鹿ノ瀬川(降灰主軸方面の流域)源頭部の降灰状況



2. 鹿ノ瀬川(降灰主軸方面の流域)源頭部の降灰状況



3. 鹿ノ瀬川においては顕著な濁水は確認できなかった

